

2 番	颯田季央 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>1、3世代が健康に暮らせるまちづくりについて</p> <p>【質問趣旨】 本市は人口減少、少子超高齢化が重要な課題となっており、昨年度の出生者数は699人、高齢化率は30%を超えてしまった。このままでは、地域における産業の担い手不足やそれに伴うコミュニティビジネスの衰退、さらには地域コミュニティの衰退など、地域住民への様々な影響が懸念される。</p> <p>しかし、昨年、本市では人口が減少する中でも社会増減が280人とプラスに転じていることから、市外からの転居が増えたことは明るい兆しであると感じる。これからは、生産年齢の人々が住んでみたい</p>	<p>(1) コロナによる社会参加の影響とポストコロナの対応について</p> <p>(2) 拠点(ホットスポット)になりえる場所を中心としたネットワークの構築について、本市には様々な集いの場、元気活力が生まれているホットスポットや、これからホットスポットになりえそうな場所がある。それらの場所への関わり方や進捗状況の一つずつ確認する。</p>	<p>①筑波大学人間系教授の山田実氏によればコロナ禍での高齢者における健康二次被害として、特に危惧されているのが、独居で近隣住民と交流が少ない高齢者の健康被害と問題提起をされている。感染対策と介護予防は天秤のような関係性で両立が難しいと言われる中、本市では様々な団体が活動を続けて下さった。ポストコロナにおいて、高齢者が関わる団体の活動がスムーズに再開できているのか、把握されている状況を伺う。</p> <p>②介護予防においては、社会参加をできるコミュニティづくりが重要である。ポストコロナにおいて本市が高齢者の社会参加をどのように促していくのか方針を伺う。</p> <p>①人口減少社会において、瀬戸市緑の基本計画では「コンパクトな集約型都市構造への転換を目指します」と記載されている。磁祖公園は「その活用方策、整備計画の見直しを検討する」とされている。令和3年12月及び令和5年3月定例会の一般質問でも「隣接する都市計画道路の陣屋線・本山線の整備促進も踏まえ、都市整備計画の管理運用活用方策を見直す」と答弁された。その進捗状況を伺う。</p> <p>②中心市街地の旧山繁商店の進捗状況・今後の利活用の方向性について伺う。</p> <p>③中心市街地に起業する人が増え空き店舗がない状況と聞いているが、今後の誘致候補地はどうか考えを伺う。</p> <p>④深川小学校の跡地利用の進捗状況・今後の活用の方向性について伺う。</p> <p>⑤中心市街地の拠点(ホットスポット)をつなぎネットワークを構築していくには、各担当課が協力して課題に取り組む必要があると考えるが、どのように取り組んでいく予定なのかを伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

2 番	颯田季央 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>と思えるまちづくりが重要と考える。そして、住み続けてもらうには、その人たちが幸福であると感じてもらうことが大切である。幸福感に関わる因子として、「健康、人間関係、自己決定の順で所得、学歴より高い」と報告されている。また、「介護予防に重要なことは社会参加である」と言われ、年齢に関係がなく、健康に生活するためには人と関わること(社会参加)を促す環境を作ることが、健康な街づくりの基本となると考える。</p> <p>このような考えから本市での全世代・全対象型地域包括ケアシステムの構築に向けた、社会資源・地域資源の活用の方針や進捗状況、市内での連携体制の構築状況を伺う。</p>	<p>(3) 祭りやイベント・文化によるつながりの創出について</p> <p>(4) 地域資源を活用する全世代・全対象型地域包括ケアシステムの構築とロードマップについて</p>	<p>①人のつながりは目に見えないが、人が人と関わりあい生活する中で形成され、気持ちによって深くも浅くもなる。そのきっかけとなるのが親や子供であったり、仕事や地域の活動である自治会や PTA 活動、自然や文化など様々である。このように、社会参加の場は拠点だけではなく、人が集まるイベントや行事などへの参加がある。本市でも大小さまざまな祭りや文化的な催しがあり、これらをとおして、新たなつながりや地域力への参加のきっかけとなっている。既存のイベントをつなぐことや、若者が行う新たな文化を創出する祭りやイベントへの支援についての取り組みについて伺う。</p> <p>②街づくりが人づくりであるならばそこで住む人、働く人が幸福であると感じられるような環境を整えることが必要である。全世代・全対象型地域包括ケアシステムが機能すれば健康で、人間関係が良好で、自己決定ができる選択枝の多い街づくりが可能となる。しかし、システムの構築が遅れ人口減少、担い手の高齢化が進めば人的資源、組織解体が起こる。時間的猶予がない中で、健康福祉部だけでなく地域資源を活用しながら全庁的に取り組む必要があると考える。過去の答弁でも市内の組織作りが必要と記録されている。この件について進捗状況と期間を含めたロードマップの作成状況を伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

2 番	颯田季央 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>2、地域包括支援センターの業務改善と介護認定のスピードアップについて</p> <p>【質問趣旨】</p> <p>地域包括ケアシステムの構築は、本市の未来を支える重要な取り組みの一つである。本市では全世代を支えるシステムの前段階として、高齢者に特化したシステム構築を行っている。しかし、愛知県の実介護・支援者数はこの20年で約4倍に増加しており、地域包括ケアシステムの要となる地域包括支援センターの業務量は逼迫している。令和4年度瀬戸市地域包括支援センター長会議の議事録を読むと、そこで働く職員の苦悩など黙認できない状況になっている。街づくりは人づくりであるならば、本市ではそこで働く人が苦しまない仕組みを</p>	<p>(1) 委託費用の増額について</p> <p>(2) 業務改善について</p>	<p>①令和4年度瀬戸市地域包括支援センター長会議の議事録によると、「同規模の市町、近隣の市町どちらと比較しても瀬戸市の委託料は低い」「報告件数の増加を考えると現在の人件費では適切ではない」と認識されているにもかかわらず、増額につながっていないが、委託料についてどのような考えかを伺う。</p> <p>②同議事録によると、「地域包括支援センター内で人件費がどのように充てられており、実際にいくら足りないか」という指摘が財政部局からあったとのことだが、「委託法人内にて地域包括支援センター以外の売り上げから人件費を補い、追加で人員を補充、または、他部署から兼務を行うことで業務を行っている」とのことである。企業努力に依存している現状が適切な状態であると考えているのか伺う。</p> <p>③高齢者の増加により業務量が増え、それを担う人材不足はどの施設でも共通の問題である。そのため、給与面の労働条件が低ければ、労働条件の良い近隣市町への転職（流出）または、同資格を利用した他の仕事への転職がocこりやすくなるが、そこへの対策をどのようにしていくのか方針を伺う。</p> <p>④同議事録によると、「委託料の増額が難しいのであれば業務量を減らす・簡略化を検討して欲しい」「介護予防事業対象者のプランの簡略化ができると負担の軽減につながる」とのことであるが、瀬戸市のある地域包括支援センターの運営方針は「1、良質な相談をすること、2、社会資源をつなげる事、3、相談できるプラットフォームになること」とのことである。多くの医療・介護職は病気や障がいでもうにもならない現状や問題に対して、当事者や家族が悩む気持ちに寄り添い力になりたいと思っている。しかし、書類などの事務作業に追われ本来力を発揮すべき時間が削られている。このような状況に対してどのような改善方法を提示していくのか考えを伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

2 番	颯田季央 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>提供する必要があると考える。地域包括ケアシステムの根幹から揺らぐ問題が起こる前に対応しなければならない。</p> <p>また、窓口だけでなく利用される方の介護認定の結果が出るまでの期間が長くなっていることでケアマネジャーの仕事に時間的ロスが起きている。こちらの件も早急な対応が必要だと考える。</p> <p>今後、高齢者だけでなく、全市民の困りごとを聞く窓口となり、地域とつなげるプラットフォームとなる為には、これらの問題を解決することが重要な課題と考える。そのため、今後の対応や方針について伺う。</p>	<p>(3) 介護認定の結果が出るまでの期間短縮について</p>	<p>②地域包括支援センターシステムの回線を使用しているパソコンは住民基本台帳と紐付けされているため外で使えない、高額なため台数が限られ順番待ちとなるなどの時間的なロスを生じさせている。仕様ソフトの選定、マイナンバーの普及による書類作成時の基本情報の簡素化・共有などのDX化や、現場で使えるようなタブレットや通信環境整備への対応が必要と考えられるが、どのように進めていく方針なのか伺う。</p> <p>①介護保険を使用するための介護認定が出る期間が1～2か月となっている。どの段階で時間がかかっているのか伺う</p> <p>②以前瀬戸市では居宅介護支援相談員（ケアマネジャー）に認定調査の委託をしていたが、いつからどのような理由で委託をしなくなったのか伺う。</p> <p>③介護認定の期間短縮を行うための方策をどのように考えているか見解を伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。